

領域 12 インフォーマルミーティング議事録

日時：2023 年 9 月 17 日（日）12:30-13:30

場所：A101 会場

司会：北尾彰朗

書記：小谷野由紀

1. 領域運営体制について

以下の通り確認があった。

代表：北尾彰朗（東工大） 任期 2023 年 4 月-2024 年 3 月

副代表：栗田玲（都立大） 任期 2023 年 4 月-2024 年 3 月

次期領域副代表：山口毅（名大） 2023 年 4 月-2024 年 3 月

任期	ソフトマター	化学物理	生物物理
2022 年 10 月-2023 年 9 月	佐野友彦(慶応大)	藤橋裕太(京都大)	小谷野由紀(神戸大)
2023 年 4 月-2024 年 3 月	貞包浩一朗(同志社大)	永井哲郎(福岡大)	佐藤匠哉(理研)
2023 年 10 月-2024 年 9 月	小林史明(九州大)	近藤徹(東工大)	多羅間充輔(九州大)

2. 次期領域副代表について

以下の案が承認された。

藤崎弘士（日本医科大学）

任期 2024 年 4 月-2025 年 3 月

3. 次期領域運営委員案について

以下の案が承認された。

ソフトマター：堀川裕加（山口大学大学院創成科学研究科）

化学物理：水口朋子（京都工芸繊維大学材料化学系）

生物物理：大窪健児（総合研究大学院大学統合進化科学研究センター）

任期はいずれも 2024 年 4 月-2025 年 3 月

4. 2024 年春季大会について

今後の学会について以下の通り案内があった。

2024 年春季大会

開催方式：オンライン

会期：2024 年 3 月 18 日(月)～21 日(木)

第 79 回年次大会 (2024 年秋)

会場：北海道大学 札幌キャンパス

会期：2024 年 9 月 16 日(月)～19 日(木)

5. 2024 年春季大会シンポジウム等の提案

インフォーマルミーティングの場では提案はなかった。2023 年年次大会（今大会）では領域 12 からの提案がなかったことから、引き続き積極的な提案を歓迎する旨案内があった。

6. 2024 年春季大会合同セッション等の提案

永井哲郎さんから、以下のような領域 9 と合同の招待講演についての提案があり、承認された。

講演題目： さまざまな氷の融液成長

Exploring Melt Growth Mechanisms in Different Ice Polymorphs

講演者： 望月 建爾（浙江大学 化学科）

講演希望日： 第 1 希望 3/18, 第 2 希望 3/19, 第 3 希望 3/20

これまでの経緯：領域 9 の勝野弘康さん（金沢大）から領域 12 と合同にしたいと提案があった

7. 米沢富美子記念賞、第 29 回（2024 年）論文賞受賞候補論文の推薦について

以下の通り、案内があった。

米沢富美子記念賞 (<https://www.jps.or.jp/activities/awards/yonezawa/yoko.php>)

7/11 にメーリングリストで案内済み

締切：2023 年 9 月 30 日

宛先：領域 12 代表 北尾彰朗 および 領域 12 副代表 栗田玲

第 29 回（2024 年）論文賞受賞候補論文

8/3 にメーリングリストで案内済み

領域 12 からの推薦論文数は 2 編以内（推薦希望者はまず領域代表まで連絡）

締切：2023 年 9 月 30 日

宛先：領域 12 代表 北尾彰朗 および 領域 12 副代表 栗田玲

8. 若手奨励賞について

領域代表より、以下の通り報告があった。

11 名の応募があり、候補者 3 名が選定、推薦された。審査結果は理事会での審議を経て決定の予定である。

また、AAPPS C.N. Yang 賞への候補者の推薦について、前回のインフォーマルミーティングにおいて「C.N. Yang 賞の推薦資格（学位取得後 10 年以内など）を満たし、若手奨励賞選考において最も評価が高かった者とする。」ことが承認されたが、若手奨励賞候補者の中に C.N. Yang 賞の推薦資格を満たす者がいない場合がありうるということが問題として共有された。この問題に対し、メーリングリストで再告知するなどして対応することが意見として出された。

9. 学生優秀発表賞について

領域代表より、応募手順について以下の問題点が共有された。

- ・講演要旨の最初に「学生賞希望（学年）」と明記しないケースが散見
今回は明記していなくとも講演申込フォームで「応募する」を選択した者について応募を認めた
※学年情報は、学生優秀発表賞が与えられる学生について学会へ報告する必要がある
- ・講演概要を領域代表まで送付しないケースが散見

学年情報の収集については以下の意見が寄せられた。

- ・講演申込フォームに記入欄を作ってもらおう
- ・講演概要提出時に個別に聞く

また、講演概要を領域代表まで送付しない件については、現在のところメーリングリストでの周知を行っているが、学生がメーリングリストに参加していない可能性もあるので、直接学生に連絡を取らざるを得ないとの意見が上がった。

10. 「計算物理」領域新設 の提案、に関する意見聴取

領域代表からこれまでの経緯が説明された後、岡本祐幸さんから補足説明があった。内容を以下にまとめる。

[現状]

- ・従来の計算物理だけでなく、データ科学、人工知能、深層学習、量子計算などさまざまな分野が急速に発展中である
- ・日本物理学会の大会では、多数の領域・セッションで 関連する研究発表・合同シンポジウムが開催されるが、異なる領域間の情報流通に課題がある

[提案]

- ・2024 年または 2025 年の年会から新領域「計算物理」の試行を開始
- ・試行期間中は年会のみで講演募集

- ・新領域と既存領域の関係：「主領域」「副領域」として、既存領域への影響を低減（若手奨励賞受賞者上限数の決め方、プログラム編成ルールなどについて具体的な議論が必要）
- ・試行期間3年を経て、新領域の継続の可否を領域委員会で決定

[計算物理領域設定の狙い]

- ・物理学会会員に対し発表領域・セッションの選択肢を提供
- ・学会全体の活性化：対象によらない「横串領域」よって、異分野間での情報の共有・流通を促進し、研究の新展開の契機作り
- ・一般市民・高校生・大学生などに対し、メッセージ（世間で耳目を集めている「計算の研究」の本拠地は物理学会！）を発信
- ・産業界・関連研究者に対する求心力を強化、会員数の増加につなげる

[2023年7月第79期理事会での議論]

- ・「新領域設定手順」（2018年7月14日 第626回理事会承認）において、以下の2点が満たされていない。そのため新領域の試行には新領域設定手順の改訂が必要
 - I. 原則として、物理学の内容・主題による区分であるべきであり、研究の手法、手段などは「領域」の区分テーマとしては認められない。
 - II. 秋季(春季)大会、年次大会の両方で開催可能であり、各大会において最低でも100件以上の一般講演が行われる必要がある。
- ・対象と手法がダイナミックに絡み合っただけで物理学は発展してきた。縦糸と横糸が必要
- ・「計算物理」は、それ自体が研究主題になっている
- ・海外の周回遅れにならないように

これまでの経緯の説明に続いて自由に意見を述べる場が設けられ、以下の意見が寄せられた。

- ・領域横断的な分野はメリットがある
- ・物理学会に参加していない周辺分野の方を巻き込めればベスト
- ・科研費の小区分は領域に対応している。もし計算物理領域が立ち上がるなら、新たな小区分の設置等により、より分野が盛り上がりやすい
- ・領域1~13は研究対象ベースの区分なのに対し、計算物理領域は手法ベースであるため、従来の領域と計算物理、どちらで発表することが想定されているか不明瞭
- ・プログラム編成において、現状でも領域間の調整が大変である。領域横断的という計算物理領域の性質から他の領域との日程調整は現実的でない。現状のプログラム編成に負担をかけない形で試行してほしい

11. その他

キーワードの変更はなし